



安倍9条改憲NO！全国市民アクション 結成 3000万人署名を提起！

5月3日のメッセージ以来、強まってきた安倍首相による9条改憲の企てを阻止するため、広範で多様な人々を結集しようと「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が結成され、9月8日には、中野ZEROホールにあふれるほどの1500人を集めてキックオフ集会が開かれました。3000万人を目標にした9条改憲に反対する一大署名運動を提起しました。

実行委員会には、「総がかり行動実行委員会」に参加する幅広い団体に加えて、「九条の会」も参加しています。「九条の会」は、6日に事務局名でアピール「安倍9条改憲を阻むために全国の九条の会は立ち上がりましょう」を出し、初めて、「組織として参加し、他団体と協力して活動する決断をしました。安倍改憲を阻むため、全国市民アクションの一員として全力をあげる決意です。」として、各九条の会が、学習会や署名活動に取り組み、共同の輪を広げるよう訴えました。

署名については、戦争法の1500万余を大きく上回る3000万を目標として、来年5月末までに集約します。来年前半の通常国会に焦点を合わせ、改憲勢力に発議をさせないことを目指し大きな盛り上がりを作っていこうという考えです。

代田・九条の会でも、学習会などの開催と、署名活動に取り組んでいきます。
(代田2丁目・伊東 宏)



発起人：有馬頼底（臨済宗相国寺派管長）、内田樹（神戸女学院大学名誉教授）、梅原猛（哲学者）、落合恵子（作家）、鎌田慧（ルポライター）、鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）、香山リカ（精神科医）、佐高信（ジャーナリスト）、澤地久枝（作家）、杉原泰雄（一橋大学名誉教授）、瀬戸内寂聴（作家）、田中優子（法政大学教授）、田原総一郎（ジャーナリスト）、暉峻淑子（埼玉大学名誉教授）、なかにし礼（作家・作詞家）、浜矩子（同志社大学教授）、樋口陽一（東北大学・東京大学名誉教授）、益川敏英（京都大学名誉教授）、森村誠一（作家）

安倍首相の9条改憲の企みを打ち砕こう

安倍首相は5月3日に、9条の第1項（戦争放棄と武力行使の放棄）、第2項（戦力不保持）をそのまま残し、明文で自衛隊を書き込むという憲法9条の改憲案を提示しました。さらには改憲を2020年に施行するとまで書かれています。今夏、自民党は推進本部を発足させ、改憲に向け盲進しています。この秋の臨時国会に自民党案を提出し、来年の通常国会で「改憲原案」として発議し、国民投票にかけることを狙っています。

「明文で自衛隊を書き込む」ことについて9条第3項や、9条の2を設けることなどが検討されているようですが、これらは憲法の平和主義を根幹から破壊することには変わりありません。

第3項を設ける案として、「前項の規定にもかかわらず、自衛のための自衛隊をおくことができる」との表現が上がっています。この「前項の規定にもかかわらず」とは「戦力不保持の規定はあるが、その例外として」との意味であり、「戦力」として自衛隊を保有すると言うのと一緒です。明らかに、戦力不保持を謳う第2項を空文化してしまいます。また、「但し、自衛隊の保有はこの限りではない」としても、自衛隊は「戦力」となり、同様に第2項を空文化します。また、九条の2を設け「わが国の平和と独立を守り国際平和に貢献するため、自衛隊を保持する」と書き込むことも検討されています。この案では、自衛権に制限がなく、個別的また集团的自衛権の行使が無制限に広がります。さらに、「国際平和活動に貢献する」規定は、国連の集団安全保障活動や国連での承認の無い多国籍軍への参加などへの道も開きます。

どの場合でも、自衛隊が憲法に書き込まれれば、9条第1、2項による制約が消滅し、海外での無制限な武力行使に道を開くこととなります。いいかえれば、平和憲法の理念が失われ「武力によらない平和」から「軍事的な平衡」を目指す国、即ち戦争する国に日本が一変します。

都議選では、改憲の問題だけでなく、森友学園や加計学園をめぐる疑惑、南スーダンでPKOに関する日報の隠蔽問題などで安倍政権は痛烈な審判を下され、自民党が歴史的な敗北を喫しました。安倍政権への不信と怒りは多数の国民が共有しています。「安倍9条改憲NO！市民アクション」が発足しました。今こそ、全国の仲間と手を携え、自民党の9条改憲を許さない世論を盛り上げていきましょう。
(代田2丁目・坂本 功)

特別な教科、「道徳」は、子どもたちの心をどう変えようとしているのか

講師：石山久男さん「子どもと教科書ネット21代表委員」「前歴史教育者協議会委員長」
幼稚園児から高校生までの孫のいるおばあさんの立場で参加しました。

来年から、小学校に通う子ども達は、“戦後初めて”ランドセルに「道徳の教科書」を入れ、学校に通い授業を受けることとなります。さあ、私たちは子どもたちと、どんな会話をすればいいのだろうか、という難しい問題に直面します。「道徳教育・道徳教科書の何が問題なのか」、表題通り政府は「子どもたちの心をどう変えようとしているのか」「私たちはどうすればいいのか」を考えながら講演を聞きました。

A4で18頁に渡るレジュメ、資料をもつての詳しい講演会でしたので、すべてを報告する紙面はありません。そもそも戦後は「新しい憲法と、教育基本法」の元にスタートしたはずなのに、第一次安倍政権の時に教育基本法を変え、愛国心を盛り込み、学校に「国旗・国家」を強制し、ついに新学習指導要領で道徳を教科にし、子どもに国定教科書を押つけ、教育の目標を「真理の追究・人格の完成」から「資質・能力」へ、大企業、政権に都合のよい「人材育成」へと目的を転換させたのです。おまけに、道徳の教科の時間で学んだことを「評価」しようとしていることが最大の問題点です。その評価体制を徹底させるため、教員に対する評価、学校に対する評価が必須になるとのこと。もうがんじがらめの統制です。そのことと関連して、「家庭教育支援法」の成立が狙われていること。「保護者が子どもに社会との関りを自覚させ、人格形成の基礎を養い、国家と社会の形成者として必要な資質を備えさせる環境の整備を図る」として、家庭にも共通理解をひろげ、地域、家庭ぐるみで学習指導要領の徹底を学校にせまる体制作りも企図されているとのこと。どうすればいいか。石山さんは、教育内容、授業方法、評価などあらゆる面で全面的に対抗しなければならないとおっしゃいます。

子どもと教育をめぐる様々な問題意識を共有して、学校に自由な空気と民主的な体制づくりを進め、教育条件整備もはかる、地域ぐるみでの子どもと教育の総がかり行動をと呼びかけられました。

とかく保護者は、何につけても、評価の良いことを良しとする価値観にとらわれていますが、もっと学び何が正しいか判断できないといけませんね。そして、直接学校と関係がなくとも、関心を持ち、公開授業などに参加し、現場の先生のお話を聞き、手を繋ぎ、応援していきたいと思いました。

(大原2丁目・森田 淑子)

「戦争は教室から始まる」 知らなかった！！

北村小夜さんという人に「戦争は教室から始まる」という著書があります。題名だけで十分寒気がしますが、山中恒さんの「少国民ノート」に「知らなかった」という記述が何か所もあり、その一つが、少国民の歌からハワイアン、タンゴやブルースが追放され、国産品の「青い目の人形」や「赤い靴」(詞：野口雨情、曲：本間長世)も同様の目に遭っています。そして、後にエスカレートして卒業式で「揚げば尊し」「蛍の光」の代わりに「海ゆかば」と「愛国行進曲」を歌わせるようになったそうです。(梅丘1丁目・湯沢 勉)

集 会 等 の 紹 介

11月3日(金・休日) 午後1時～ 創立9周年のつどい

朗読とトーク：栗原 小巻さん(俳優)

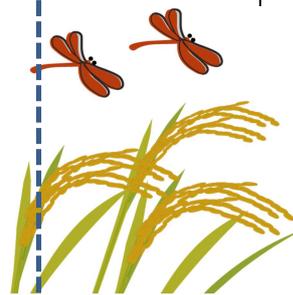
講演：石田 勇治さん(東京大学大学院教授)

「なぜ民主的憲法下のドイツにヒトラー独裁体制が生まれたのか？」

今、ワイマール民主制崩壊の要因を考える

会場：東京都民教会 礼拝堂 世田谷区代田5-35-2

連絡先 代田・九条の会



11月3日(金・休日) 午後2時～

安倍9条改憲NO！全国市民アクション 国会前大集会

主催：実行委員会(総がかり行動実行委員会、九条の会などで構成)

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～